

# 『十勝型』地域包括ケアを目指して

## ～新たな医療・介護連携、4年間の歩みとこれから～

### ⑥ 連携ツール(2)「おくすり手帳版連携シート」

十勝連携の会  
笠松 信幸 幹事  
(かさまつケアオフィス  
合同会社代表)



医薬分業が本格的に始まったのは今から40年も前の1974年、診療報酬改定で院外処方せん料が1件100円から500円に大幅引き上げされたのが契機だそうです。それでも20年くらい前までの帯広は、ほとんどの病院・診療所に院内薬局があり、薬は病院で受け取るものでした。最近では多くの医療機関で院外処方せんが発行されるようになり、調剤薬局で薬剤師から薬の説明と一緒に受け取るのが一般的になっています。

今回紹介するツールは、その際に使われる「おくすり手帳」を連携道具として活用するためのシートです。

### ※はじめは「ケアプラン」を貼り付け※

2010年、函館市で開かれた研修会に認知症診療で有名な遠藤英俊医師(国立長寿医療研究センター内科総合診療部長)がみえました。研修後の懇親会で私が「主治医とケアマネが日常的に情報交換するために、何か良い方法はないでしょうか」とお尋ねしたところ「おくすり手帳を使うといいよ。あれは薬剤師だけでなく医者もよく見るものだから」とアドバイスいただいたのが、おくすり手帳連携ツール化のきっかけです。

試作品はまず、ケアプランの縮小コピーを貼り付けてみたのですが、まったくダメでした。A4判のケアプランを手帳の大きさまで縮小すると、文字が小さくなりすぎて読めなくなりました。

そこで、週間予定表のページだけを貼ることにしました。これなら縮小して少しくらい読みにくくなくても、この患者さんが何曜日にデイサービスに行っているのか、ヘルパーが来るのは何時ごろかといった大まかなことは読み取れます。さらに、要介護認定を受けていること、担当ケアマネがいることは主治医に伝わるだろうと期待して半年ほど続けてみました。でも残念ながら、医療機関からはノーアクションでした。

失敗の原因は連携の仕方が一方通行だったからだと思います。せつかく見てくれた医師がいても、それ以上発展性のない連携でした。

### ※3年後、新たな姿で復活！※

2013年春、十勝連携の会のツール開発検討チーム会議で姿も新たに復活したのが「連携シート(おくすり手帳版)」です。

改良版では3年前の失敗から学んで、次の3点を考慮しました。①双方向の連携ツールにする②読みやすいものにする③多職種連携型のツールにする一です。

シート(図1)は、記載欄が左右に分かれています。中央で2つに折って「おくすり手帳」の空白ページに貼り付けるだけです。

左側には、「患者氏名」「介護度」「担当ケアマネ」「利用している介護・福祉サービスとその頻度」「ケアマネから主治医・薬局への連絡」が書けるようになっています。記入用紙はエクセルファイルなので、5分もあれば入力完了です。

右側は、「病院・診療所・薬局からのご連絡欄」になっていて、医師や薬剤師、看護師等がコメントを書き込めるようにしました。(シート本体と記入例は「十勝連携の会」ホームページ<http://www.tenmusu.org/>からダウンロードできます)

### ※こんなもの貼ってもいいの？※

シート原案を発表した幹事会の席上、投げかけられた質問。「おくすり手帳は薬剤情報を記入するための手帳ではないか。このような介護・福祉情報を貼りつけてしまったら、あとで問題にならないだろうか」という心配です。

たしかに、私たちは連携をすすめたい一心から「貼っても問題ないだろう」と楽観的解釈をしていたのですが、その根拠はきわめて薄弱でした。

そこで「蛇(じゃ)の道は蛇(へび)」ということで、保健所のルートで関係法令に詳しい人に尋ねていただきました。結果は「問題なし」です。「おくすり手帳には、これを記載してはいけないという具体的な規程がないのだから、患者の療養の便宜を図るために情報提供書等を貼付することは何ら問題ない」という解釈でした。

### ※「見つけたらコピーしています」※

運用をはじめると、調剤薬局の薬剤師さんから「患者さんに許可をもらってコピーしています」という嬉しい反応をいただきました。

主治医から調剤薬局に発行される処方せんには、患者さんの病状や経過は書かれていません。そのため薬剤師は、患者さん本人や家族からそ

図1 連携シート(おくすり手帳版)

連携シート (おくすり手帳版) 《 記入例 》	
お名前: 佐藤A様 (記入: 25年 4月15日)	病院・診療所・薬局からのご連絡欄
要介護: 4 (25年4月1日～26年3月31日)	( 年 月 日・医師・薬剤師・看護師: )
ケアマネジャー: 田中▲子	( 年 月 日・医師・薬剤師・看護師: )
指定居宅介護支援事業所●●●(TEL.00-0000)	( 年 月 日・医師・薬剤師・看護師: )
利用している介護・福祉サービス	曜日・頻度
●●訪問看護ステーション	火
デイケア●●	月・水・金
ヘルパーステーション●●●	火・木・土
配食サービス(夕食)	月～土
ショートステイ●●苑	月5日程度
福祉用具(ベッド、車いす貸与)	
ケアマネから主治医・薬局にご連絡	( 年 月 日・医師・薬剤師・看護師: )
・認定更新で要介護3→4になりました。	備考:
・今月から配食サービスが始まりました。	

うした診療情報を聞き取り、薬局のカルテに記録しているのですが、介護度やサービス利用状況など日常生活情報までは把握が困難だったそうです。

誰が担当ケアマネか分かるので、薬剤師が居宅療養管理指導を行う時の連携がしやすくなるかと歓迎されています。

また、昨年秋、道薬剤師会が「おくすり手帳」をリニューアルする際に、十勝の連携シートをホームページで紹介してくださいました(図2)。

図2 道薬剤師会ホームページから

**お薬手帳について**

お薬手帳活用ツールとして、「お薬手帳を有効に活用しましょう」チラシと、十勝連携の会で活用されております「連携シート(おくすり手帳版)」をご紹介させていただきますので、お薬手帳の啓蒙並びに、多職種連携時のツールとしてご活用下さい。

- 「お薬手帳を有効に活用しましょう」チラシ ※officeファイルは、ファイルを保存後にファイルを開くをお選びください。
- 十勝連携の会「連携シート(おくすり手帳版)」 ケアマネージャーが主治医や薬剤師等と連携するのを助けるシートです。「お薬手帳」と同じ大きさです。記入例を参考にして情報を入力し、プリントして「お薬手帳」に貼り付けるだけ。きっと医師、看護師、薬剤師の目に留まります。
- 記入例はこちら

いま新しい「おくすり手帳」は、どんな情報でも、誰もが書き込める様式に改訂されています。

「おくすり手帳」は東日本大震災の時、避難所で応急の医療サービスを受ける際などにカルテがわりとしてその実力を発揮したそうです。私たちはそこに「手帳」が薬剤情報ツールにとどまらない底力を秘めていると考えます。「おくすり手帳」は、地域包括ケアの中で、もっと多機能に活用されるツールになっていくでしょう。

※ ※ ※

今回は、十勝連携の会自慢のツール「看取りの作法」のご紹介です。